

「わたしの好きな町」

仙台市立南小泉小学校 4 年

伊藤 優理さん

「暗くなる前に帰りましょう。」

「明るい、人が多い道を通って帰って来てね。」

と学校の先生や、お母さんにいつも言われます。暗くて人がいない場所だと、ゆうかいされ
そうな時、事ここにあった時に目げきされにくいからなんだろうなあとなんとは分かって
いました。

去年の夏、わたしは家族でグアムに行きました。わたし達は、ホテルから少し遠いレスト
ランで夕ご飯を食べた後、夜 9 時ころ、ホテルに帰るためタクシー会社の電話番号に電話を
しました。しかし、なぜかと中で電話をブチッと切られて、その後電話がつながらなくなっ
てしまいました。レストランの人はふ親切で、早く出て行けというたい度だったので、わた
し達はとりあえず外に出ました。

外は、車は少し走っていましたが、人はあまり歩いていませんでした。少ししかない外と
うも、せが高くて、ボヤボヤした光は地面にとどいていなくて、こいあい色の世界。わたし
は、

「こわい。」

と泣きたくくなりました。暗くて、知っている人が全ぜんいない世界は、とてもぶ気味である
事を知りました。ここで、わたし達が刃物でころされても、だれにも見えないんだろうな。

結局その時は、お母さんがホテルに電話をし、タクシーをよんでもらって、ぶ事にホテル
に帰ることができました。

犬のさん歩の時、

「トイプードルですか。」

と話しかけてくれる人がいる世界は、とても心強くてホッとするんだなあ強く感じまし
た。

この作文のぼ集か題の、人との信らい感、地いきとのれんたい感という事は、わたしには
よく分かりません。今分かる事は、外でこわい事があった時、友達のみどりちゃんのお母さ
んと知らないおじさんが近くにいたとしたら、わたしが、助けて、と言える相手はみどりち
ゃんのお母さんという事。助けてほしい時に助けてと言うと、助けてくれる人がいっぱい
いる世界がわたしは好きです。

だからわたしも、近所の人とコミュニケーションをとることをがんばります。まずは、元
気にあいさつをします。もし、こまっていそうなおばあちゃんがいたら、

「何かお手伝いしますか。」

と、よけいなお世話かもしれないから、小さく声をかけてみます。小さい子が道路で遊んで
いたら、

「あぶないですよ。」

と、注意します。

みんなもそうすれば、知っている人がふえていき、みんなが安心できて、悪い事をしにく
い町ができるのかなと思います。